

## 2019年度 講義概要（シラバス）

科目名	平和と人権A（ヒロシマと国際平和）
担当者	担当者（責任者）：広島平和研究所 教授 水本和実 教授 永井 均 講師：ロバート・ジェイコブズ、竹本真希子（いずれも広島平和研究所）、柿木伸之（国際学部）、馬場雅志（情報科学部）、吉田幸弘（芸術学部）、國本善平（社会連携センター）ほか。
履修時期	前期
履修対象	1・2年
概要	本講義では、広島の実験を基礎から応用まで様々な視点と教材で学習します。講義を通して基礎知識を修得するとともに、皆さんが「ヒロシマ」という国際平和文化都市で暮らし、学ぶことの意味を考えます。
到達目標	私たちが「平和」を考える際、出発点の一つになるのは、身近に起きた深刻な平和の喪失体験です。広島での歴史的な喪失体験、それは原子爆弾による市民の被爆でした。他方で、世界に目を向けてみると、それぞれの国や地域、民族に固有の、深刻な平和の喪失体験があります。平和を考える対象を広げていくことで、国際社会全体の平和を考えるヒントを探りたいと思います。本講義では、平和を考える出発点として広島の実験を中心に取り上げ、多様な専門性から学んでいきます。最終的な狙いは、世界の様々な平和の課題を考えるための基礎力を養うことにあります。
受講要件	特にありません。事前の知識がなくても、どなたでも学ぶことができます。
事前・事後学修	広島では、テレビやラジオ、新聞などを通じて、平和に関連する幅広い報道がなされています。受講生の皆さんには、これらを積極的に見聞き、自分自身で考える一助にして欲しいと思います。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 なぜ、広島と長崎だったのか？（水本・永井）</li> <li>2 ヒロシマを世界に伝えた人びと——ロベルト・ユンクと小倉馨を中心に（竹本）</li> <li>3 英語で広島を案内するヒント（外部講師）</li> <li>4 世界に関心を向け、貢献しよう——カンボジアとひろしまハウス（外部講師）</li> <li>5 CGによる原爆問題へのアプローチ（馬場）</li> <li>6 原爆が人体と心にもたらしたもの（外部講師）</li> <li>7 原爆投下の法的問題（永井）</li> <li>8 原爆投下をめぐる「記憶」の違い（水本・永井）</li> <li>9 被爆地を支えたソウルフード——お好み焼の誕生物語（國本）</li> <li>10 アメリカのヒバクシャ（ジェイコブズ）</li> <li>11 広島平和記念資料館の仕事（外部講師）</li> <li>12 被爆の思いを七宝焼きに託して（外部講師）</li> <li>13 「原爆文学」を読む（外部講師）</li> <li>14 デザインやアートからヒロシマを見直す（吉田）</li> <li>15 被爆の記憶を継承するために（柿木）</li> </ol> <p>※トピック、講師、順序等は変更される場合があります。</p>
評価方法	平常点を60点、期末レポート（必須）を40点として、これらを合わせて総合的に評価します。
教科書等	参考書：講義で適宜指示します。
担当者プロフィール	水本教授：専門は国際政治、特に核軍縮。主な著書に『核は廃絶できるか』（法律文化社、2009年）など。 永井教授：専門は日本近現代史。主な著書に『フィリピンと対日戦犯裁判』（岩波書店、2010年）など。
備考	